



J-PARC の利用ポリシー

高エネルギー加速器研究機構
日本原子力研究開発機構

(発表者：永宮正治 (J-PARCセンター長))



利用の原則

- ユーザー本位の原則
 - 窓口の一本化
 - 多様な国内外のユーザーの声を汲み上げる仕組み
 - ユーザー支援体制の充実
- 一元的な利用体制
 - 一元的な実験課題審査と審査基準。
 - 審査の公平性、透明性の確保。競争性による優れた研究の選定。
 - 内部ユーザーも外部ユーザーも審査対象。
 - 一元的なユーザー対応。
 - 国内外のユーザー、多分野に亘るユーザー、大学・産業界のユーザーを区別しない。
- バランスのとれた利用
 - J-PARC全体として、施設性能を最大限に発揮させ、優れた研究成果を出す運営。
 - 施設全体でのバランス。 多様な研究分野間でのバランス。
- 利用料金の原則
 - 両機関としては、成果公開課題の利用について無償の方向で検討中。



J-PARC / 原子核・素粒子実験施設の利用方針

- ICFA/IUPAP のガイドラインを適用
 - 課題公募の一元化
 - 実験課題は J-PARC センターで受け付け、結果も J-PARC センターより通知。実験課題審査は KEK 素核研に依頼
 - 国内外のユーザーを区別しない同一の審査基準
 - 成果公開が原則

- 大学共同利用としてのユーザー支援を踏襲



J-PARC/物質・生命科学実験施設の利用方針

一元的な利用体制

- 学術研究、基礎研究から応用研究まで幅広い国内外に開かれた利用を推進
- 大学共同利用と施設共用を併用し、一元的な利用体制を構築する方向で検討中
- 物質・生命実験施設課題審査委員会(MLF-PAC)を設置し、そこで課題審査をする方向で検討中
 - 中性子利用課題とミュオン利用課題

施設の性能を最大限に発揮させ、優れた研究成果を輩出する運営

- 成果公開課題はすべて課題審査 ... 公平性の確保と競争性による優れた研究の選定
- 中性子とミュオン実験装置の併用課題や複数の実験装置を利用する研究課題の受付
- 最高の装置性能維持・向上のための研究開発及び装置性能を最大に発揮する先導的研究開発の推進
- 支援体制の充実(コーディネータを配置した相談・支援、高い専門性の技術支援サービス)

産業界に使いやすい仕組みの整備

- 成果専有(非公開)課題、随時受付課題を設置
- 知財ポリシーの策定などで知的財産権の保護
- 秘密保持・情報管理の徹底
- トライアルユース制度の導入